

講義名	中国語 B			授業形態	
担当教員	森 宏子	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

この授業では中国語の基礎を学びます。中国語はよく「発音よければ半ばよし」と言われます。発音が命といっても過言ではありません。中国語学習の最初の目標は、正しく発音ができ、聞き取れ、ピンイン（中国語音のローマ字表記）がきちんと読めることです。私たち日本人にとって中国語学習は、漢字を理解できることが大きなメリットですが、逆にデメリットになることもあります。たとえば、漢字を見たらなんとなく中国語を理解した気になり、発音を大事にしないということがよく見られます。それでは中国語を真にマスターすることはできません。中国語を音でキャッチし、理解できるようになりたいものです。テキストでは基本的で活用度の高い表現を学びます。半年の学習でも、けっこう使える言い回しを学ぶことができます。本学には中国からの留学生がたくさん在籍しており、中国語がいつでも使える恵まれた環境にあります。学んだ中国語をどんどん使って、留学生と積極的に交流してほしいと思います。

中国語Aと中国語Bは、どちらも同じレベルの授業（入門クラス）です。どちらを履修してもかまいません

到達目標

1. 中国語学習を進めていく上での基礎的知識（発音、ピンイン表記）を身につける
 2. 平易な中国語を聞き、質問や状況に応じた応答ができるようになる
 3. 平易な文の意味を理解でき、書くことができるようになる
- 中国語検定試験のレベルを目安とすると、準4級～4級レベルの中国語に相当します。検定試験準4級～4級にチャレンジできる力をつけます

提出課題

とくに課題は予定していません

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

出席確認を兼ねて小テストを行うことがあります。小テストは返却しませんが、次回の授業で講評します。中間試験は返却した上で、講評します。

評価の基準

次の点を総合的に判断します
 平常点（出席状況、受講態度） 20%
 中間試験と期末試験 80%

履修にあたっての注意・助言他

必ず教科書を購入して授業にのぞんでください。受講態度として評価の対象となります

教科書	.やってみよう！中国語.	白水社	吉田泰謙・玉峰	2200	9784560069417
-----	--------------	-----	---------	------	---------------

参考文献

その他

必要に応じて配布します

授業計画

1. ガイダンスおよび 発音：声調、母音
 2. 発音：子音、鼻母音
 3. 第1課：お名前は何ですか？
 4. 第2課：何をたべますか？
 5. 第3課：弟がひとりいます
 6. 第4課：今どこにいるのですか？
 7. 第5課：沖蘭に行ったことがありますか？
 8. 中間試験
 9. 第6課：サンドイッチを買いました。
 10. 第7課：踊ることはできますか？
 11. 第8課：宿題をしています。
 12. 第9課：甘いのが好きですか、からいのが好きですか？
 13. 第10課：白いのはいいのより高い
 14. 第11課：昨日の授業はちょっと難しかった
 15. 第12課：あなたは日本語とてもお上手ですね
- 授業の進度は、クラスの状況を見て調整します

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 【予習】
 新しい課に入る時は、事前に単語帳（ワークシート）を配布します。単語帳を自宅で作成させてください
 次の授業で学ぶところに目を通し、分かるところと分からないところを、明確にしておいてください
 テキスト付属のCDを聞き、ピンインと実際の音を聞き比べてください
 可能であれば、講義を音読してみる
 （以上、2時間程度）
- 【復習】
 授業で学んだところを自宅でもう一度「振り返し」を行ってください
 ドリルなどの宿題をします。今回学んだポイントの定着を図ります
 講義のピンインを手書きし、ピンインを体で覚えます
 テキスト付属のCDを聞きながら、講義を読みます
 （以上、2時間程度）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、法学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成実の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に皆熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

--